

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

～ ICT 化、多様化に対応し、国内外で社会貢献できる人物を育てる学校をめざす ～

- 1. 生徒が未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成することをめざすとともに、知識の理解の質を更に高め、確かな学力を育む
- 2. 多文化理解教育を一層推進し、コミュニケーション能力やプレゼンテーション力に加えて世界の国の文化や伝統を理解し尊重する態度を身につけることで、文化が異なる人々と協働して社会の諸問題の解決に向けて積極的に行動する人物を育てる
- 3. 豊かな心や社会人基礎力【前に踏み出す力】【考え抜く力】【チームで働く力】を育成する

2 中期的目標

1 確かな学力の定着と学びの深化【授業力】

- (1) 言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力や、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を教科等横断的な視点に基づき育成する
 - ア 生徒にめざす資質・能力を育むために「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の視点で、授業力向上を進める
 - イ 「観点別学習」を進めるとともに計画・実践・評価・改善という一連の活動を繰り返すことで指導と評価の一体化をめざす
 - ウ 生徒が学習において「思考力・判断力・表現力」を自在に働かせることができるようにするために、教師が専門性を発揮する
 - エ ICT 等を活用して学習活動等を充実する
 - ※ 学校教育自己診断「授業はわかりやすい」の肯定的回答を令和8年度 70%となることを目標とする (R02:66.6%, R03:61.4%, R04:59.8%, R05:69.8%)
 - ※ 授業アンケート「授業内容に、興味・関心をもつことができた」の肯定的回答を令和8年度も 80%台を維持することを目標とする (R02:81.7%, R03:82.4%, R04:84.9%, R05:83.9%)
 - ※ 授業アンケート「授業を受けて、知識や技能が身に付いたと感じている」についての肯定的回答を令和8年度も 80%台を維持することを目標とする (R02:85.6%, R03:85.7%, R04:87.4%, R05:86.6%)
 - ※ 英語検定準2級相当以上の合格者合計が令和8年度 180 名となることを目標とする (R02:67 名, R03:254 名, R04:88 名, R05:81 名)
- (2) 基本的な知識及び技能を確実に習得させる。また、これらを活用して SDGs の諸問題を始めとした様々な課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育む
- (3) 個性を生かし多様な人々との協働を促す教育の充実に努める。その際、生徒の発達の段階を考慮して、生徒の言語活動など、学習の基盤をつくる活動を充実するとともに、家庭との連携を図りながら、生徒の学習習慣が確立するよう配慮する
 - ※ 大学入学共通テストに向けた対応、英語4技能評価にかかる民間の資格・検定試験の活用を図る
 - ※ 国公立大学及び難関私立大学（関関同立・産近甲龍・関西/京都外大）の現役のべ合格者数が令和8年度には 250 名以上となることを維持する (R02:241 名, R03:325 名, R04:285 名, R05:290 名)

2 豊かな感性・しなやかな心・社会人基礎力の育成【自律・自己実現】

- (1) 体験活動や、多様な表現や鑑賞の活動等を通して、豊かな感性や創造性の涵養をめざした教育の充実に努める
 - ア 総合的な探究の時間や HR を活用し、生徒の生きる力の醸成を図る
 - イ 部活動や有志の地域行事への参加等を通して、ボランティア活動への意識を高める
- (2) 豊かな感性をもち、伝統と文化を尊重し、個性豊かな文化の創造を図るとともに、公共の精神を尊び、他の国や文化を尊重し、未来を拓く主体性のある人物の育成に努める
 - ア 普通科、国際文化科の両科とも国際感覚を醸成すべく、校内国際交流、海外語学研修や留学生受入れ等に取り組むとともに日本文化への理解を深める
 - イ 学校行事、国際関連行事、語学研修や部活動を通し、社会人基礎力「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」を育成する。また、生徒が夢や志を持って自身の可能性を伸ばし、よりよく社会に参画する態度を育む
 - ウ 地域住民や小・中学校、企業、大学、行政等の外部機関の専門的な知見やフィールド等を活かした連携を通じてさらなる教育内容の充実に努める
 - エ 集団活動に積極的に取り組む機会と環境を提供し、自他の違いを認め、協調し、「協調友愛（校訓）」の精神を培い、他者と望ましい人間関係を構築できる人間性を育む
- (3) 学校の教育活動全体を通じて、基本的な生活習慣の確立を図るとともに、集団の規範を遵守し、多様な価値観を認めながら、他者と協調して活動することのできるしなやかな心と規範意識を育む
 - ア 自分自身で考えて行動し、自らを律することのできる「自主自律（校訓）」の精神を醸成する
 - イ 学校における生活指導は学校全体で組織的かつ丁寧に行う
 - ※ 頭髪、服装の乱れ、不注意による遅刻がないように指導を継続する 遅刻について、令和8年度 2000 件以下に減ずることを目標とする (R02:1458 件, R03:1572 件, R04:2942 件, R05:2848 件)
 - ※ 部活動加入率（3 学年平均）が令和8年度には 70%になることを目標とする (R02:57.9%, R03:58.2%, R04:62.8%, R05:64.2%)
- (4) 安全に関する情報を正しく判断し、安全のための行動に結び付けるようにする

3 学校の特色づくりと組織力の向上【学校運営】

- (1) 学習活動、学校行事、部活動などの教育活動に関する教職員の共通理解を深め、学校全体で「旭で伸ばす」の目標を持ち、邁進できる組織を構築する
 - ア 将来構想委員会を核として、「これからの旭」の課題解決を図るとともに、教職員が常に「改善」の意識を持ち、PDCA による学校改革、授業改善に更に一丸となって取り組むよう努める
 - イ グループウェア等を活用し、校務運営の効率化を進める。
 - ウ 運営会議、職員会議などの充実に図り、教職員間の意思の疎通を図る。よりよい校務分担体制を確立し、学校運営を円滑に行う
- (2) 校務の効率化を図り、生徒と向き合う時間を確保する
 - ア ICT を活用した取組みを推進し教職員が機器を効率よく使用できるよう研修を行う。生徒の学びの深化を図ると同時に、校務の効率化に繋げるさらに、経費削減の意識を持って教職員間で使用するペーパーの削減をめざす
 - イ 学校休業日や部活動休養日の設定などに取り組み、生徒、教職員が心身ともに健全であるように努める
- (3) 学校の特色の共通認識と広報活動の充実に努める
 - ア ホームページやパンフレット等を充実させて効果的な情報発信をすることにより広く学校を理解してもらえるように努める
 - イ 校内美化に努めるとともに、令和7年度に向けて校内設備の安全と充実に努める

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和6年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
※数字は学校教育自己診断の回答のうち肯定的評価の割合(%)を示す。 （「よくあてはまる」「ややあてはまる」の割合） 【Ⅰ】保護者からの回答に関して（R4→R5→R6） （1）学校生活全般に関する設問について、「よくあてはまる」または「ややあてはまる」の割合 1．子どもは学校行くのを楽しみにしている（79.8%→82.7%→79.7%） 3．生活指導の方針に共感（62.8%→66.7%→64.8%） 4．将来の進路や職業について適切な指導（67.3%→68.6%→71.5%） 5．子どもの心身の健康について気軽に先生に相談できる（58.7%→57.9%→58.9%） 13．学校はいじめについて子どもが困っていれば真剣に対応（24.6%→27.4%→28.0%） ・「生活指導方針に共感」については、やや下降した。 ・「将来の進路や職業について適切な指導」は、上昇した。 ・「子どもの心身の健康について気軽に相談できる」は、やや上昇した。 ・「学校はいじめについて…真剣に対応」について肯定的な回答が昨年度よりやや増加。今年度も、いじめ状況そのものが少ないので、「わからない」との回答が多いと考えられる。 ・毎年3回、全生徒へのいじめ等（安心安全生活）アンケートなどを引き続き丁寧に実施し、いじめを見逃さない取組を続ける。 （2）学校行事（特別活動）に関する設問について「よくあてはまる」または「ややあてはまる」の割合 6．学校行事は子どもにとり有意義（94.6%→95.1%→94.0%） 7．人権尊重の意識や社会ルールを育成（69.4%→69.8%→71.6%） ・学校行事に関しては、本年度も高い水準を維持している。体育祭、文化祭とも達成感のある行事となっていると思われる。また、今年度はコロナ前に実施していた台湾への海外修学旅行を実施した。 （3）学習活動および学習環境についての「よくあてはまる」または「ややあてはまる」の割合 2．子どもは授業がわかりやすく興味深いと言っている（47.7%→50.0%→50.1%） （生徒の「授業はわかりやすい」の回答との比較（59.3%→69.8%→72.7%） 9．学校の施設・設備は学習環境面でほぼ満足できる（46.1%→45.2%→42.5%） ・「授業がわかりやすく興味深い」と家庭で話している生徒は、毎年少しずつ増え50%になっている。しかし、同じ質問の生徒回答では72.7%であり、20%以上多くなっており、差が見られる。 ・施設設備について、全体として改修要望は多い。トイレやプールなどは改修が進んでいるのだが。 【Ⅱ】生徒からの回答に関して（R4→R5→R6） （1）学校生活全般に関する設問について「よくあてはまる」または「ややあてはまる」の割合 1．学校へ行くのが楽しい（76.0%→85.1%→82.9%） 20．学校生活の満足度（80.2%→81.8%→83.3%） 1年生：81.2%→79.3%→77.8% 2年生：78.4%→81.0%→83.3% 3年生：79.5%→85.3%→88.8% 21．後輩に旭高校を勧めるか（74.9%→68.7%→72.8%） 1年生：79.5%→72.5%→72.1% 2年生：73.3%→63.5%→75.4% 3年生：70.0%→70.9%→71.0% ・本校での高校生活を楽しんでいる生徒が80%以上いることを維持している。 ・「旭高を後輩に勧めるか」との設問では、1、3年生では微増、2年生では約12%も上昇している。	■令和6年度 第1回 学校運営協議会 7月12日（金）15時30分～17時00分 於 本校会議室 1．学校経営目標と現状報告 〔校長〕令和6年度学校経営計画及び学校評価から重点目標の説明・確認。 ・「授業がよくわかる」：肯定的評価。特に「よく当てはまる」を伸ばす。 ・「国公立大学及び難関私立大学への合格」：実績は高止まり。昨年は7クラス規模で実績維持。攻めの進路指導が必要。 ・「命の大切さや社会のルールを学ぶ機会」「人権を学ぶ機会」：高い評価が維持されている。教員含め学校全体の高い意識が反映されている。 ・教員「問題行動に組織的に対応」：83%から64%と減少したが、分析が必要。「組織的」「対応」「体制」の何が問題か。 ・本校の強み：生徒及び教員ともに高い項目「将来や人生について考える機会がある」「進路情報を伝えてくれる」「生徒個人の適正に応じた進路指導」 ・部活動加入率：64.2%から増やしていきたい。部活で培った力で進路を切り拓く。 ・地域等から高い評価を得られるよう邁進する。 ・旭を後輩に勧めたいか：現状の7割弱をもっと増やしたい。 2．各分掌等の取組み 分掌長及び学年主任から取組みをまとめた資料を提示。 3．協議 ＜委員＞登校時等の安全面について、自転車事故や雨天時の運転が気になるが。 〔事務局〕雨天時、傘をささずに、雨合羽を着用している生徒は多いが、本校の校地校舎に余裕がなく、雨合羽を干す場所の保障が困難な現状がある。 ＜委員＞昔から旭はブランド力がある。素敵なことだ。なぜ昔からそうなのか。 〔事務局〕多方面で頑張る生徒が多いからか。それが本校の原動力となっているのではないか。何かしようと思った時に「ちょうどいい」学校だと生徒が言っている。生徒が穏やかだ。 ＜委員＞勉強できる、部活動頑張れる、いろいろできる学校だ。落ち着いている学校というブランド力があると思われる。 ＜委員＞中学生は、地元集中型なのか。その地域別データはあるのか。現状分析として統計をとっておくとよいと考える。 〔事務局〕比較的近くから来ている生徒が多い。 〔事務局〕国際文化科の志願者を増やしたいが、中学生と保護者はどのような意識を持っているのだろうか。 ＜委員＞コロナ禍で海外志向が減少したか。コロナ終息後、私立高校が短期留学、進路先への道筋などいち早く推し進めてきた感がある。また、中学生が国際文化科卒業後の進路をイメージできるまで、将来の夢が決まっていなかったからか。幅広く学べる普通科を選択する傾向にあるのでは。 〔事務局〕これまで国際文化科卒業後の進路としては国際・語学系に限らず、多様な進路先に対応できることをアピールしてきているのだが。 ＜委員＞外国語系大学でも、もちろん語学のイメージは強いが、実は社会科学も学べる。 ＜委員＞「問題行動が起こった場合の組織的に対応できる体制が整っている」という肯定評価が64%と低いことが保護者としては不安だ。 〔事務局〕学校生活の中で問題行動と捉えられている事案そのものの発生が非常に少ない状況であるためか。 ＜委員＞家庭学習時間が減っているのに進学実績が伸びているのはなぜか。 〔事務局〕教員の立場からはもう少し自主的学習をしてほしいと思っているが、個別の勉強時間の記録をコンスタントにとっていけば数値は上がると考えられる。 ＜委員＞私立高校の無償化に負けない旭高校の魅力をアピールしたほうがいい。 ＜委員＞府のPTAでも公立高校の問題について注目している。今後、情報共有をしていきたい。 ■令和6年度 第2回 学校運営協議会 11月29日（金）15時30分～16時50分 於 本校会議室 1．各分掌の取組み 〔分掌長及び学年主任〕各資料に基づいて進捗状況を説明。 〔首席〕 ・学校の広報活動とその計画について。 ・「NEXT10」委員会について。旭高校の未来について議論していく機関。検討だけでなく、小さなことでも実現に向けて動いていく。「旭の魅力の深堀り」「学校組織の運営」「働き方」の3つのテーマに別れて進める。教科・分掌ではなかなか手をつけづらいところを検討していく。 〔首席〕「観点別学習評価に関する学習チーム」の設置と運営について。 パフォーマンス課題：生徒の主体的な取組みをいかに評価するかという問題。 英語科教員が教職大学院にて研究していることを機に、校内においても研究活動が開始。 ループリック：取組みに対して条件やその度合を設定し評価を行う。設定や判断の困難さを伴うが。生徒にとって、どのようなパフォーマンス課題が良いのか。

(2)学習について、「よくあてはまる」または「ややあてはまる」の割合 2. 先生は生徒の意見を聞いてくれる (78.8%→81.0%→83.7%) 3. 授業はわかりやすい (59.8%→69.8%→72.7%) 4. 授業で分からないところについて先生に質問しやすい (72.9%→76.2%→77.3%) ・「先生は生徒の意見を聞いてくれる」の肯定的回答は約 84%となった。 ・「授業で分からないところ…質問しやすい」の肯定的回答も上昇傾向である。100%をめざしたい。 ・「授業はわかりやすい」の肯定的回答が増加している。今後も増加させたい。 (3)キャリア教育・人権教育について、「よくあてはまる」または「ややあてはまる」の割合 10. 将来の進路や生き方について考える機会がある (90.3%→90.4%→91.6%) 14. 命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある (85.0%→88.4%→91.8%) ・進路について考える機会について、年々肯定的回答が増加している。進路行事を多彩に企画し、生徒が進路を考えるよい契機にできているといえる。 ・命の大切さ、個人の違いを理解し尊重すること、よき関係を保つために社会のルールについて学ぶことなど、教育活動全般を通じて取り組んでいる。 (4)家庭学習時間について 22. 平日の勉強時間 <table><tr><td>0～30分</td><td>47.4%→53.9%→57.7%</td></tr><tr><td>1時間</td><td>25.1%→23.9%→21.2%</td></tr><tr><td>2時間以上</td><td>27.6%→22.2%→21.2%</td></tr></table> 23. 休日の勉強時間 <table><tr><td>0～30分</td><td>41.2%→50.8%→51.5%</td></tr><tr><td>1時間</td><td>19.1%→19.6%→20.0%</td></tr><tr><td>2時間以上</td><td>39.6%→27.5%→28.5%</td></tr></table> ・平日、休日とも勉強時間が 30 分以下の生徒が昨年より増加した。また、休日 2 時間以上学習する生徒の割合が 1 %増加した。 ・昨年 11 月現在の通塾率は 26.6 % (1 年 20.0% 2 年 24.9% 3 年 34.5%) 昨年は 24%であった。 【Ⅲ】その他全般に関して (R4→R5→R6) 11. 学校からの連絡を子どもがもらさず伝えている <table><tr><td>保護者</td><td>61.3%→61.4%→55.6%</td></tr><tr><td>生徒</td><td>77.3%→78.1%→81.7%</td></tr></table> 10. 学校が家庭連絡を積極的に行っている <table><tr><td>保護者</td><td>66.6%→68.2%→65.4%</td></tr></table> 16. 保護者が旭高校のどこに最も注目しているか (いずれか 1 つ) <table><tr><td>教育方針</td><td>12.7%→14.9%→14.9%</td></tr><tr><td>生徒会活動や行事</td><td>21.9%→18.8%→15.5%</td></tr><tr><td>進路実現</td><td>40.3%→45.0%→40.1%</td></tr><tr><td>国際交流</td><td>18.6%→16.4%→20.8%</td></tr><tr><td>部活動</td><td>6.5%→ 4.9%→ 8.7%</td></tr></table> ・学校からの家庭連絡については、今後ともメールによる情報配信や HP の充実など、情報発信に努めていきたい。 ・本年度も、進路実現の注目度が高まっている。また、国際交流や部活動についても関心度が上昇している。	0～30分	47.4%→53.9%→57.7%	1時間	25.1%→23.9%→21.2%	2時間以上	27.6%→22.2%→21.2%	0～30分	41.2%→50.8%→51.5%	1時間	19.1%→19.6%→20.0%	2時間以上	39.6%→27.5%→28.5%	保護者	61.3%→61.4%→55.6%	生徒	77.3%→78.1%→81.7%	保護者	66.6%→68.2%→65.4%	教育方針	12.7%→14.9%→14.9%	生徒会活動や行事	21.9%→18.8%→15.5%	進路実現	40.3%→45.0%→40.1%	国際交流	18.6%→16.4%→20.8%	部活動	6.5%→ 4.9%→ 8.7%	2. 協議 ○授業参観 (2 年英語 1 年現代の国語)のご感想 ＜委員＞英語：落ち着いた授業態度が大前提か。国語：慣用句を生徒に学ばせるグループ活動があった。グループにおける役割の設定も良いのではないかな。 ＜委員＞・英語：スピーディな印象。文化の違いから授業。国語：グループ活動では生徒の個性が出る印象。 ＜委員＞クロームブックの活用が浸透。生徒の状況把握の困難さ (パソコンの画面は教員から見えない) があるか。キーボードの使い方をもう少し教えても良いのではないかな (効率的な授業の進行につながる)。 〔事務局〕クロームブックを活用した単語テストを行う際、少人数のクラスでは教室の後ろに立ち確認。大人数の場合はバッテリー不足や送信ミスなど新たな課題への対応も生じる。 〔事務局〕 1 年生の情報の授業で学んでいるはずだが、 2 年生を見ていると定着度合いがあまり見られない部分も確かにある。テクニックに関する生徒の関心もそこまで高くなく、自分のできる範囲で取り組んでいる印象。 ○各分掌等の取組みについて ＜委員＞配慮が必要な生徒の把握についてはどうか。 〔事務局〕入学前の調査書や健康診断でのピックアップ、生徒・保護者への聞き取り等で把握。 ＜委員＞教員のクロームブック利用についてはどうか。 〔事務局〕職員会議は主に学習支援クラウドサービスを活用して配信 (ペーパーレス化)。 ＜委員＞観点別学習評価についてはどうか。ルーブリックに関して、生徒が本校でどのような力を身につけていくかの学校全体の目標のもと、各学年や各教科における方針を定めたいうえでの設定することが重要なのではないかな。 〔事務局〕学校全体の枠組みの整理は今後の課題である。教科個別の取組みや動きを集約するという機運をつくっているところ。 ＜委員＞ICT を使って多様な学習を行っている子どもたちが後 10 年の間に高校生になっていくので、高校では楽しみにしてほしい。 ＜委員＞旭高校の就職指導の課題についてはどうか。 〔事務局〕上級生とのつながりが希薄なこともあるからか、就職に対する心構えの差が見られる。就職を選択することを 1・2 年生から決めている生徒が多い印象がある。 ＜委員＞受験に向けての教材選びについてはどうか。 〔事務局〕授業の予習と復習を前提とした英語力の獲得、また、それを見据えた教材選びへの意識を高めている。受験の対応と授業の予習・復習を関連づけていきたい。 〔校長〕 ・生徒たちの成長のために学校としての変革を進めていきたい。 ・教職員の構成では、入れ替わりも多い現状にある。様々な経験と知恵が流入している。 ・学校文化の点検と新規の取組みを生み出すチャンスと捉えることができる。 ・「NEXT10」や「研究チーム」などを活性化させて、学校課題達成に向けて邁進する。 ■令和 6 年度 第 3 回 学校運営協議会 1 月 24 日 (金) 15 時 30 分～16 時 50 分 於 本校校長室 1. R6 学校経営計画と現状報告 〔校長〕・学校教育自己診断 (生徒)「授業がわかりやすい」について。数値が右肩上がりである。これは、学校教育自己診断 (教職員)「生徒の学習に応じて学習指導の方法や内容について工夫している」の肯定的数値の伸びにもつながっている。 ・電子黒板導入やペア学習・グループ学習が行われていることなどにより、学校 (教職員) が生徒の学習意欲に応じて、学習指導の方法や内容を研鑽していると分析している。 ・人権、同和問題、SNS に関するモラル指導などしっかり行っている成果だと思われる。 ・学校教育自己診断 (保護者)「学校生徒指導の方針に共感できる」について。さまざまなとりくみは行っているが、もう少し数値をあげていきたい。 ・「NEXT10」委員会の取組みについて。課題を洗い出し変革に向けた検討をしている。「働き方改革から休み方改革へ」: さまざまな制度の活用、休暇を取得しやすい環境づくりを。「変えられることから進めていこう」の考えにより、教員からの声を大切にしながら議論している。 2. 協議 ＜委員＞教職員の働き方について。 ・教職員が早く休める環境をつくってほしい。 ・保護者の意見をみていると、旭高校が選んでもらえるような学校づくりをしてほしい。 ＜委員＞休みづらいということはあるのか。 ・担任になると休暇がとりづらいのではないかな。 ・制度を活用したときのフォロー体制が難しいからかな。 ＜委員＞学校教育自己診断について (④イウエ)。 ・生徒がわかりやすい＝教職員が工夫している数値アップが喜ばしい。 ・何か組織的な対応をしてきたのか？ ・相互授業見学。コロナ禍を通して、教職経験の少ない先生が教職経験の豊かな先生に不慣れな ICT 活用を支援してくれたり、教職経験の豊かな先生から教職経験の少ない先生に授業方法など助言したりすることがあり、お互いに聞きやすい関係が構築された。また、公開授業がもっと保護者の見学者が増えると良い。 ・公開授業はどれぐらい行っているのか。 ・年 2 回。選んでもらえる学校につながることを願っている。
0～30分	47.4%→53.9%→57.7%																												
1時間	25.1%→23.9%→21.2%																												
2時間以上	27.6%→22.2%→21.2%																												
0～30分	41.2%→50.8%→51.5%																												
1時間	19.1%→19.6%→20.0%																												
2時間以上	39.6%→27.5%→28.5%																												
保護者	61.3%→61.4%→55.6%																												
生徒	77.3%→78.1%→81.7%																												
保護者	66.6%→68.2%→65.4%																												
教育方針	12.7%→14.9%→14.9%																												
生徒会活動や行事	21.9%→18.8%→15.5%																												
進路実現	40.3%→45.0%→40.1%																												
国際交流	18.6%→16.4%→20.8%																												
部活動	6.5%→ 4.9%→ 8.7%																												

府立旭高等学校

	<委員>これからの 国際文化科 について。 ・公立高校の魅力づくりの一つとして国際文化科の特色は何か。「私学文系をめざす」など、中学生や保護者にわかりやすいキャッチフレーズがあっているのではないか。 ・英語科とは差異を図りながらわかりやすいカリキュラムを編成している。一般入試、国公立をめざしている生徒がいる。 ・留学など進路の充実を図る。 <委員>高校卒業後の進路 について。 ・今の中学生・保護者は途中のプロセスより結果を求める傾向があるようだ。 ・国際文化科については、方向性が決まっているような感覚がある。 ・何を勉強するのか、どのような職業に就いているのか、わかりやすい説明を工夫するとよいのでは。 <委員>働き方改革について。 ・工夫や仕組みづくりが必要だ。代替確保の問題など。 <委員>超過勤務について。 ・仕事の分散化を組織として考える必要があるのではないか。
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標〔R5年度値〕	自己評価
1 確かな学力の定着と学びの深化 授業力	(1) 言語能力, 情報活用能力, 問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力や、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を教科等横断的な視点に基づき育成する	(1) ア ①「主体的な学び」 本校の「キャリア・パスポート」である「AsahiCard」を活用する。学びのプロセスを生徒自身が記録し蓄積することで変化や成長を自己評価し、キャリア形成と自己実現につなげる。 ②「対話的な学び」 実社会で働く人々が連携・協働して社会に見られる課題を解決している話を聞いたりすることで自らの考えを広めるとともに、生徒自らが考えたことを、意見交換したり、議論したりすることで新たな考え方に気が付いたり、自分の考えをより妥当なものとしたりする。 ③「深い学び」 「総合的な探究の時間」の充実に向けて委員会を中心として全体化し、指導の方向性を確立させるとともに、現在の国際教養科の課題研究の時間を発表に結び付けて充実させる。 イウ 学習活動の質の向上 ①指導方法を工夫して必要な知識・技能を教授しながら、それに加えて、生徒の思考を深めるために発言を促したり、気付いていない視点を提示したりするなど、学びに必要な指導の在り方を研究する。	(1) ア ①Asahi Card の充実 各学年 10 枚以上書きためる。 〔1 年 8 枚、2 年 12 枚、3 年 10 枚〕 ①加えて学びの取組みの記録として 2 年生では「総合的な探究の時間」ファイルを作成し、振り返りシートを 10 枚書き溜める。 〔国際文化科 10 枚 普通科 23 枚〕 ②学校教育自己診断（生徒）「将来の進路や生き方について考える機会がある。」肯定評価 85%以上〔90%〕 ②社会人講話や模擬授業を 1、2 年で 3 回以上実施する。〔1 年 4 回 2 年 6 回〕 ③普通科ではグループでの探究活動、国際文化科では個人で探究活動を行い、校内の発表会を実施する。 ③国際文化科 2 年次の課題研究校内発表会をし、最終授業でのアンケートで「SDGs についての問題を考え議論することができた」の肯定評価 100%〔100%〕 イウ ①相互授業見学 100%〔80%〕 ①学校教育自己診断（生徒）「授業はわかりやすい」についての肯定的回答、65%以上をめざす。〔70%〕	(1) ア ① Asahi Card (△) 〔1 年 6 枚 2 年 11 枚 3 年 12 枚〕 生徒自身がいつでも見ることができるファイルに書き溜めることで振り返りシートの役割を果たした。 ①「探究時間」振り返りシート 〔国際文化科 9 枚 普通科 24 枚〕 (○) 探究委員会を中心に活動内容・方法について検討する資料とした。 ②〔92%〕(○) 2 年生で「進路選択から進路決定へ～確実な進路実現を」をテーマに講演会を企画したり、1 年生で生徒・保護者対象の進路説明会を積極的に開催したりなど、生徒の学習意欲と進路意識を向上させる取組みを進め、高い数値目標を維持した。 ②〔1 年 4 回 2 年 6 回〕(○) 計画通り実施した。 ③普通科と国際文化科ともに探究委員会と学年、国際部が中心となって年間の探究活動計画を企画・立案、実施した。発表会は地域の区民ホールで開催し、発表の場づくりを工夫するとともに、外部指導者を招聘して助言・講評をいただいた。 (○) ③〔100%〕(○) イウ ①相互授業見学〔82%〕(△) ①〔73%〕(○) ICT 活用やペアワーク、グループワークを積極的に活用するなど、生徒

府立旭高等学校

		②質の高い授業を提供することで生徒が自らのキャリア形成への意識を高め、さらに希望する進路実現につなげる。 ・	①学校教育自己診断（教職員）「生徒の学習意欲に応じて、学習指導の方法や内容について工夫している。」85%以上〔87%〕 ②授業アンケート「授業内容に、興味・関心をもつことができた」についての肯定的回答、80%以上を維持する。〔84%〕 ②学力診断テスト、模擬試験等を学年毎3回以上実施。 〔1年4回、2年4回、3年全員1回、希望者5回〕 ②進路に関する説明会及び講演会を合計4回以上実施。 〔保護者向け全学年5月、2年2月 生徒向け1年9月、2年10月12月12月1月、3年4月5月大学別6回〕 ②大学見学会、大学による模擬授業合計3回程度実施。 〔大学見学会1年10月、大学による模擬授業2年7月、10月〕 ②補習・講習など各種講習を充実させ、令和5年度程度の学習の機会を設ける。 〔1年76回 2年52回 3年162回〕 ②授業アンケート「授業を受け、知識や技能が身についたと感じている」についての肯定的回答、80%以上を維持する。〔87%〕 ②国公立大学及び難関私立大学（関関同立・産近甲龍・関西/京都外大）の現役のべ合格者数250名以上を維持する。〔290名〕 エ ICT等を活用して学習活動等を充実する。 ①GIGAスクール構想を踏まえ、教員が必要に応じてHR活動や授業でICTを活用できるようにする。 ②授業、その他で、プレゼンテーション能力及びコミュニケーション能力を養う。	の学習に対するモチベーションを向上させる努力がうかがえた。毎時多くの教室でICT機器が稼働しており、授業の旭スタンダードが形成されつつある。 ①〔89%〕（○） 「観点別学習評価に関する授業研究チーム」により、パフォーマンス課題の内容とルーブリックの取組み、横断的授業を意識した相互授業見学を進め、芸術（美術）科の授業を通して評価の在り方について検討するなど、観点別学習評価についての議論を全体化することができた。 ②〔84%〕（○） ICT活用やペアワーク、グループワークを積極的に活用するなど、生徒の学習に対するモチベーションを向上させる努力がうかがえた。 ②〔1年4回、2年4回、3年全員1回、希望者6回〕（○） 計画通り実施した。 ②〔保護者向け全学年5月、2年2月 生徒向け1年9月、2年10月11月12月1月、3年4月5月大学別6回〕（○） 計画以上に実施し、前年度の実績を維持した。 ②〔大学見学会1年10月、大学による模擬授業2年7月、10月〕（○） 計画通り実施した。 ②〔1年91回 2年62回 3年150回〕（○） 計画通り実施した。 ②〔88%〕（○） 様々なアクティビティが組み込まれた能動的な教育活動が行われていることから、生徒の学習へのモチベーションを向上させた。 ②〔359名/8ｸﾗｽ〕（◎） 国公立大学 4名 関関同立 66名 産近甲龍 229名 関西/京都外大 60名 エ ①〔2回〕（○） 計画通り実施した。 ②〔90%〕（○） 学校教育自己診断をはじめ様々なアンケートでもグループウェアを活用した。活用することが通常となり、スキルの獲得に定着した感がう
--	--	--	--	--

				かがある。
2 豊かな感性・しなやかな心・社会人基礎力の育成 自律・自己実現	（３）学校の教育活動全体を通じて、基本的な生活習慣の確立を図るとともに、集団の規範を遵守し、多様な価値観を認めながら、他者と協調して活動することのできる規範意識を育む	（３） ア「自主自律（校訓）」の醸成 ①自分自身で考えて行動し、自らを律することのできる精神を醸成する。 イ 学校における生活指導は学校全体で組織的かつ丁寧に行う ①生徒に服装を正す意味や挨拶の大切さを考えさせた上で、丁寧に行う。 ②携帯電話の扱いについて考えさせる機会を持つとともにSNSに関係するトラブルがないよう指導を行う。 ③頭髮や服装の乱れに注意し、不注意による遅刻をなくすよう継続して指導する。また、挨拶を励行し礼儀を身につけて、社会人としての規範意識や協調性を培う。	（３） ア ①学校教育自己診断（生徒）「学校は生活規律や学習指導基本的習慣の確立に力を入れている。」85%をめざす。〔83%〕 ①メール配信、学校ブログ、式辞でメッセージを伝える。40 回程度〔118 回〕 ①集団活動（行事等）後に達成感や充実感を図るアンケートを実施。肯定評価 80%以上〔90%〕 ①学校教育自己診断（生徒）「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」肯定評価 80%を維持する。〔88%〕 ①学校教育自己診断（生徒）「人権について学ぶ機会がある」肯定評価 80%を維持する。〔93%〕 イ ①②③ 学校教育自己診断（教職員）「生徒による問題行動が起こった時、組織的に対応できる体制が整っている。」肯定評価 80%以上をめざす。〔64%〕 ①②③学校教育自己診断（保護者）「学校の生徒指導の方針に共感できる」70%以上〔68%〕 ②SNS に関するモラル指導、トラブルについての講習を 1 回以上行う。 ③遅刻数 2000 件以下をめざす〔2848 件〕 学校教育自己診断（保護者）「学校の生徒指導の方針に共感できる」70%以上〔67%〕	（３） ア ①〔86%〕（○） 学校生活及び日々の学習において、挨拶をする、時間を守る、身だしなみを整える、毎日机に向かって学習するなど、小さな努力を積み重ねるよう、高校生としてのあるべき姿を求める中、指導に対する生徒の理解を維持した。 ①〔152 回〕（◎） 学校ブログ、校長式辞、保護者・生徒対象のメール配信など、時宜を得た配信に努めた。 ①〔90%〕（○） ①〔92%〕（○） ①〔93%〕（○） 同和問題・人権問題をテーマとした教職員研修を実施するとともに、「総合的な探究の時間」などを活用し、SDG s を含む今日的な人権課題を生徒・教職員がともに学習する機会とした。情報モラルをはじめとする今日的な人権課題にも取り組んだ。 イ ①②③〔83%〕（◎） 目標数値を大きく上回った。生徒支援委員会、保健部、生徒指導部、学年が連携し、要支援生徒についての情報共有と丁寧な見立てを行い、スクールカウンセラーと協働して支援方針を決定するなど、生徒と保護者に寄り添いながらその困り感の解消と不安のない学校生活の確保に向けて取り組んだ。 ①②③〔65%〕（△） 目標数値を上回らなかった。結果分析を進めるとともに広く意見集約する必要がある。入学の際やPTA関係行事、長期休業前のメールや書面により丁寧な説明に努める。 ②計画通り実施した。（○） ③遅刻数〔2509 件〕（●） （12 月末） 自己診断結果〔65%〕（△）

府立旭高等学校

		③校内の連絡事項はメール等で行うこと、会議終了の予定時間を設定することで会議の時間短縮を図るなど、校務の運営の効率化を進める。 ③使用ペーパーの削減を図る。 ④家庭への連絡事項については、必要に応じて連絡用メール等を利用し、保護者への周知を図る。 イ 働き方改革の取組みの推進 ・学校部活動方針（休養日等）の遵守及び全校一斉定時退庁日の遵守を推進する。	②学校教育自己診断（生徒）「学校では、生徒 1 人 1 台端末を効果的に利用している。」肯定的評価 90%をめざす。〔89%〕 ③時間外勤務月 80 時間以上の職員を減少させる。〔延べ 30 名〕12 月現在 ③紙の使用を前年度 1 割減をめざす。〔更紙 591, 000 枚〕 ④教育活動における取組みや連絡事項をホームページや連絡用メールを利用して発信し、学校教育自己診断（保護者）「学校は、家庭への連絡や意思疎通を積極的に行っている。」肯定評価 80%をめざす。〔68%〕 イ ・教職員一人あたりの年間平均時間外在校等時間の前年度 2 割減少をめざす。 〔33 時間 32 分〕12 月	②〔93%〕（○） ③〔延べ 32 名〕増加した。（△） ③〔737, 000 枚〕（△） 目標数値に反し、減じることができなかった。職員会議資料のペーパーレス化が徹底されてはいるが、定期考査にデジタル採点を導入し、採点後に解答用紙を出力することが大きな要因と考えられる。 ④〔65%〕（△） 目標数値には達しないが、昨年度の数値をほぼ維持した。生徒・保護者連絡メールを有効に活用した。「積極的」な活用のイメージと具体の方策が必要である。 イ 〔34 時間 44 分〕12 月末現在（△） 前年度程度を維持したが、減少させるには至らなかった。
--	--	--	---	--